



がんばれ高田 負けるな高田
できる できる できる!

【校訓】

自主・協力・創造

文責 校長 大串 久隆

8月9日長崎平和祈念の日、平和について考え、何ができるかを模索する日に

高田中学校でも、平和について様々な視点から考え、何ができるかを模索しています。

【1年生のおばあちゃんから聞いた戦争当時や原爆の話(文化部)】 【原爆について調べたこと(文化部)】

当時の生活

学校に行っても
野菜や豆を置いて、食料を
つくり兵隊さんに送る。
勉強は全然できなかった。

サイレンが2回なった時は、
警戒警報。
鐘が続けて4回なったら
空襲警報。

楽しい思ひは、
全然なくて、怖い
思ひばかり。女性
も危ないことばかり
させられた。
(船を沈める魚雷づくり
などのために)

原爆が落ちたとき

周囲が真黄色にな
った。強いいなすまのよ
うなものが光り、
ドカーン/大きな音
がした。

見たら家も入っているか。
家の中がめちゃくちゃになって
いた。真黒い雲がモクモクモク、
出ていた。

無我夢中で走ってき
たけれど、「水を!水を!
水をちょうだい」というて
たおれてしまった。
(道ノ尾駅付近まで)

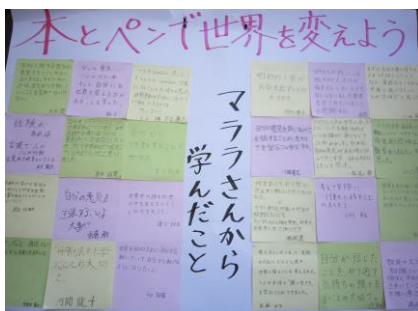
「長崎原爆について」
・長崎原爆(原爆の被害)は第二次世界大戦(太平洋戦争)末期の1945年(昭和20年)8月9日(木)午前11時02分
〈内容〉
原爆の投下により当時の長崎市人口24万人(推定)のうち
死者73,884人 重軽傷者74,904人 罹災人員120,820人被害
を受けた建物は、約36%が全焼または全半壊した。

爆心地からの距離(km)	最大爆風半径(km)	最大風速(m/秒)	被害の程度
0.5	19	280	強い鉄骨建築物の総潰れ 屋根も壊れた。
0.8	13	200	鉄筋コンクリート耐震設計 のものでも大被害(一部破損)
1.8	3	72	この辺までの大被害(一部破損)
2.6	1.6	36	この辺まで部員中被害
3.2	1.2	28	この辺まで部品被害
約15			転倒被害

【千羽鶴の製作】 【平和のためにできること(道徳)】



・マララさんの姿に学ぶ
「本とペンで世界を変えよう」



【図書室からの本の紹介(図書部)】

「読んで知って平和について考えよう!」(生徒紹介コーナー)
・戦争の惨(むご)さや悲しさを伝える写真集や詩、高校生
が平和を受け継ぐ意味を考え記した本など、様々な視点
からの本を紹介



私たちは、話を聞いたり、調べたり、本を読んだりするなど様々な方法や手段を利用して、戦争のことや平和のこと、原子爆弾のことなど、多くのことを学ぶことができます。また、平和な地域、平和な社会、そして平和な世界を創るためにどうすればよいかを模索する意思を持てば、多くの人たちが、様々な取組を行っていることも見えてきます。大切なのは、知ろうと思うこと、何ができるかを模索することです。その意識の先に、自分がやりたいこと、やるべきことが見えてくるのではないのでしょうか。ぜひ、一人一人が平和の推進者となるべく、平和を模索する人になってほしいです。

令和３年度 高田中学校平和宣言

1945年8月9日、11時2分。たった一発の爆弾により、このナガサキから緑輝く自然や賑やかな街並み、そして何より、かけがえない多くの命が奪われました。

2021年8月9日。今、私たちは青空の下、穏やかに学校生活を送っています。友だちと話をしたり、家族と食卓を囲んだり、そして、戦争におびえることなく、安心して眠ることができます。

今、私たちの周りは「平和」と言えるのかもしれませんが、しかし、世界に目を向けると、紛争やテロが後をたたず、尊い命が失われています。そして、現在、コロナウィルスの猛威によって私たちの生活が大きく変化するとともに、貧困や差別の問題も起きています。

76年という月日は、戦争や原爆で受けた傷を癒やすことができたのでしょうか。いえ、76年経った今も、被爆者やその家族の方々が苦しみ続けておられます。

私たちが被爆者の方から、直接体験を聞くことができる時間は長くはありません。未来を託された者として、戦争の悲惨さを正しく理解し、平和の大切さを後世へと伝えていくことが、私たちの使命だと思います。

戦争が人の心の中ではじまるように平和も私たちの心の中ではじまる

戦争をつくりだしてしまった私たち人間は、必ず平和をつくりだすこともできる

責任は、私たちひとりひとりの肩にかかっている。ひとりひとりの力や声はとても小さい。

でも、二人、三人…と集まれば、それはやがて大きな力や声となります。

私たちは、平和学習で学んだことをきっかけにして、ここ、高田中学校から平和のメッセージを発信していくことを宣言します。

一、私たちは、戦争を二度と繰り返さぬよう、自主的に、平和の尊さを次の世代へ伝えていきます。

一、私たちは、差別やいじめを許さず、ひとりひとりの命を尊重し、互いに協力していきます。

一、私たちは、積極的に学習や活動に取り組み、平和な未来を創造していきます。

令和3年8月9日 平和学習実行委員会

令和３年度 高田中学校 平和集会（校長講話）

今年、長崎に「原子爆弾」が投下されて76年目を迎えました。私たちは、原爆で亡くなられた多くの方々のご冥福を祈り、私たち自身が平和を願い、平和な世界の実現者となるための決意を確認するために、この平和集会を行っています。

長崎に原爆が投下されたとき、約7万人の人が死亡したと言われています。その時の様子を、子供たちの視点で記録に残した書物があります。「原子雲の下に生きて」という本です。爆心地近くの山里小学校では、児童1300人のうち1100人が亡くなり、生き残った約200人の子供は、自らも負傷したり、親や兄弟を無くしたりして悲しみのうちにも生きていかなければなりません。原子爆弾はひどかとバイ。痛かとバイ。もうやめませ！という言葉からも伝わるように、その子供たちの悲しみや悲痛の叫びが込められた手記です。ここで、2つ、手記を紹介します。

今、紹介したのは被爆当時4歳と5歳の子の手記です。

「原子雲の下に生きて」という本は、このような原爆孤児を少しでも助け、この子たちの悲痛な叫びや心からの願いを社会に知らせるために、永井隆さんが子供たちから手記を募り、その文章を編集して出版したものです。そして、その印税を子供たちの手記のページ数に応じて分配しました。つまり、悲惨な生活環境の中で、どうにかして子供たちの生活を助けたいという思いが、この本には込められています。

「原子雲の下に生きて」のまえがきには、次のことも書かれています。永井さんが「君たちは、ケガをしたり、親をなくしたりしたが、とにかく生き残ったのに、たくさんのお友達が死んだ。この本に書いたような悲しいことが起こらないように平和を願い、また、死んでいったお友達の冥福を祈るために記念碑を建てようではないか」と呼びかけ、子供たちは、もらった印税の中から少しずつお金を出し合って、山里小学校の運動場に「あの子らの碑」という平和を願う記念碑を建てたということです。

永井さんは、子供たちに、平和を願う強い気持ちを持たせ行動させることで、「強く生きなさい」というメッセージを子供たちに伝えたのだと、私は思います。

さて、今、世界では持続可能な社会を築くために、SDGsの実現が叫ばれています。これは、このままでは地球環境が悪化し、人類が生存できなくなることが目に見えてきているからだと思います。SDGsの実現は、一人一人が当事者意識を持つことが大切だと強調されています。SDGsには「平和と公正な社会」や「貧困や飢餓の解消」など、平和に直結する目標があり、それを実現していくためには、私たち一人一人の具体的行動や様々な発想が大切になります。永井隆さんが、原爆孤児を救うために、子供たち自身から手記を集め、本を出版し、子供たち自身に平和のための行動を起こさせたように、私たちが平和な社会や核兵器の無い世界を実現するためには、多くの人に「平和への歩みをしよう」という意志を持たせることが大切だと思います。

先日、長与町では、「平和コンサート in ながよ」が行われ、音楽や詩の朗読を通して、平和について考えていこうという催し物が行われました。また、今日本では、平和の祭典オリンピック、パラリンピックが開催されています。これも、世界平和を求めるための行動の一つです。

長崎の地で生まれ、育った私たちは、原爆の恐ろしさや平和の大切さを常に聞いて育ってきました。そして、平和の大切さを感じている人たちは世界中にたくさんいます。私たちは、平和について敏感でしなやかな心を大切にしていきたい。そして、多くの人の多様な考え方を理解しつつ、平和の歩みをみんなで進めていくために、何ができるか、何をすればよいのかを常に考え、行動できる人になりましょう。

あなたなら、あなたたちなら できる できる できる

